

「積極的な避難勧告は、過去の勧告の反省を踏まえて改められた。この方針をどう評価するか。空振りを恐れず、早めに避難勧告を出す」と打ち出した内閣府の方針は大きな転換点である。実際の住民の避難行動につながるかは意味がない。ここでも「空振り」という言葉が、避難勧告に対する住民の心理的ハードルを下げている。住民の避難行動は、避難勧告が出た瞬間から始まる。避難勧告が出た瞬間から、住民は避難行動を開始する。避難勧告が出た瞬間から、住民は避難行動を開始する。避難勧告が出た瞬間から、住民は避難行動を開始する。

避難勧告乱発の傾向

「各地で避難勧告が多く出されてはいるが、早急な避難勧告を促す内閣府の方針がある。空振り恐れず、早めに避難勧告を出す」と打ち出した内閣府の方針は大きな転換点である。実際の住民の避難行動につながるかは意味がない。ここでも「空振り」という言葉が、避難勧告に対する住民の心理的ハードルを下げている。住民の避難行動は、避難勧告が出た瞬間から始まる。避難勧告が出た瞬間から、住民は避難行動を開始する。避難勧告が出た瞬間から、住民は避難行動を開始する。



群馬大学教授 山田 健二氏
東京女子大名誉教授 広瀬 弘忠氏

外れても積極的発令

「各地で避難勧告が多く出されてはいるが、早急な避難勧告を促す内閣府の方針がある。空振り恐れず、早めに避難勧告を出す」と打ち出した内閣府の方針は大きな転換点である。実際の住民の避難行動につながるかは意味がない。ここでも「空振り」という言葉が、避難勧告に対する住民の心理的ハードルを下げている。住民の避難行動は、避難勧告が出た瞬間から始まる。避難勧告が出た瞬間から、住民は避難行動を開始する。避難勧告が出た瞬間から、住民は避難行動を開始する。

広域対象 課題残す

「八月の台風1号で初めて市全域に避難勧告を出した三重県鈴鹿市は、市は大雨特別警報や河川水位の上昇などから、広い範囲で災害発生が見込まれるとして、市全域に避難勧告を出した。三重県鈴鹿市安楽町で（市提供）」



台風避難対象 100万人規模に

最近の豪雨災害	避難勧告	避難指示	所管行政不明	避難所
10月13-14日 台風19号	181万人	109人	3人	鹿児島、高知、大阪の各府県に次々と上陸。日本列島を縦断した。
10月5-6日 台風18号	357万人	6万人	7人	浜松市に上陸し、首都圏を直撃。東京都の港区でも避難勧告。
8月20日 広島市での土砂災害	16万人	4627人	74人	広島市の安南区、安佐北区で大規模な土砂崩れ。避難勧告の発表で遅れ。
8月15-24日 大雨	25万人	6487人	8人	岐阜県高山市、京都府福知山市、北海道札幌市などで記録的豪雨。
8月9-10日 台風11号	152万人	59万人	1人	三重県に大雨特別警報を発表。高知県に上陸して、四国、近畿を縦断した。
7月6-10日 台風8号	118万人	4172人	3人	長野県南木曾町で土石流により1人死亡。
10月16-17日 台風26号	9万人	4万人	43人	東京・伊豆大島で大規模な土石流により36人死亡、3人が行方不明。

※1万人以上は千の位を四捨五入。避難指示・勧告は消防庁の全国集計

避難者や被害が少なかった例

災害	地域	避難勧告などの対象者	避難所に避難した人	けが人
8月の台風11号	三重県各地	62万人	5000人	7人
8月の台風11号	静岡県	71万人	47人	0人
10月の台風18号	東京都港区	4万5000人	6人	0人

避難情報のレベル

- 危険度** 一帯は毎月第1、第3回掲載されます。次回17日、「想定シナリオ」第2部を始めます。
- 避難情報** 災害発生が予想され、避難の準備を始める段階。高齢者や障害者ら災害時要援者には避難を始めるよう求める。
- 避難勧告** 災害発生が危険性が高まった段階。被害が予想される地域の住民に避難を始めるよう求める。
- 避難指示** 災害発生が確実に迫った段階。被害が予想される地域の住民に避難を始めるよう強く求める。